名古屋の「居住記録」

名古屋から大阪に転居して 4 年。あの引越し騒動が懐かしい。
なんだか名古屋の住まいの変遷を振り返りたくなった。名古屋時代の「居住歴」を記録しておきたい。

1979 年 4 月から名古屋市立女子短大で教えることになり、大阪から名古屋に引っ越した。どこに住もうか迷ったが、自然豊かな東山にした。池下の不動産屋さんの仲介により、東山公園に近い「新池」前の古びたアパートの 4 階に住んだ。

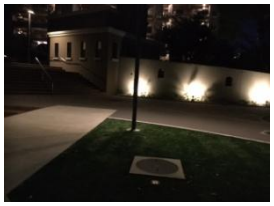
自宅ベランダから東山の緑が見え、新池から平和公園南部までよく散歩した。ここをメイン会場として 1988 年「名古屋オリンピック」が開催される予定だったが、IOC 総会でソウルに敗れた。新池の古びたアパートは、引っ越したあとに取り壊され、いまはマンションになっている。

次に住んだのが、地下鉄東山駅からすこし坂を上がったところにある中古分譲マンション。部屋を改装して、快適な住まいになったはずだが、急傾斜地に建てられたマンション。とにかく眺めはよいが、急な階段や騒音など問題も多かった。管理組合の役員にさせられ、マンション管理に苦労した。

忘れもしないことがある。大雨の「浸水」、階上の「ボヤ」騒ぎが続いた。せっかく苦労して手に入れた「マイホーム」だが、思い切って手放すことにした。分譲をやめ、賃貸で生活することに決めた。UR 賃貸生活のはじまりである。

その頃、星ヶ丘で「公団」住宅の大規模リニューアルが行われており、運よく抽選に当たった。リニューアル初期であり、その後、新しい高層住宅がいくつも建てられ、公園等も整備された。

6 階に住んだが、ベランダから東山タワ―や名古屋都心を見ることができ、廊下からは瀬戸「海上の森」を眺めることができた。寒風に震えながら、朝焼けの空を写真に撮ったことを思い出す。ベランダからの夕焼けも、よく写真におさめたものだ。2005 年の愛知万博のときは、光輝く長久手の会場周辺がちらりと見えた。



星ヶ丘 UR でお気に入りだったのが、自宅前の広場だ。昼間は子どもたちの遊び場として賑わっていた。夜には照明により幻想的な空間となる。大学で嫌なことがあると、帰宅前にここで気分転換することが多かった。私にとって貴重な「癒しの場」であった。35 年にわたる名古屋の住まいのなかで、やはり星ヶ丘 UR がいちばん快適だったと思う。

(2021 年 11 月 28 日)